

♪ シニア便り ♪

第20回定期演奏会に向けて

第20回定期演奏会・実行委員長

クラリネット 山田 光國

平成25年度定期総会報告

事務局長 伊藤 英明

副団長よりごあいさつ

トランペット 鈴木 隆起

新入団員のごあいさつ

『三十年振りに』

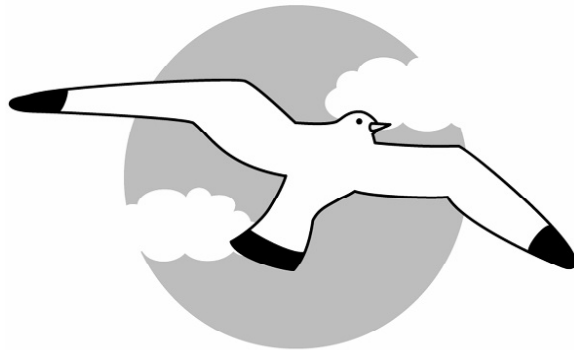
ホルン ^{すずりみ} 硯見 康弘

『よろしくおねがいします』

オーボエ 若原 梓

平成25年度 役員の役割分担について

事務局長 伊藤 英明



第24号 (2012年7月発行)

発行 北海道シニア吹奏楽団・事務局

編集 シニア便り・編集部

『第二十回定期演奏会』の
成功にむけて

第二十回定期演奏会実行委員会

実行委員長 山田 光國

第二十回定期演奏会および祝賀会まで残すところ三ヶ月ほどになりました。実行委員会も昨年の六月に初回の打ち合わせを行ってから、七月七日で十一回行われ、大枠が決定しました。

七月からはいよいよ詳細な項目が決定し、具体的な形を成してきます。わたくしは実行委員長を仰せつかりましたが、さっぱり要領が悪くて、阿部薫さん、石田さん御二人の右腕左腕と強い参謀を得て、また他の実行委員の皆様にも支えられて心強い限りです。

十月の本番を、シニアらしく、おごそかに、また心に残る演奏会にたく頑張りますので、皆様方のご協力の程、節にお願いたします。

演奏曲目等は以下の通りとなっております。選曲理由はそれぞれあり、二十周年を祝う曲や大作作曲家の没後記念、新たに出発しようという意味を込めて船出をイメージした曲、お客様に感謝の気持ちを含めた曲などさまざまです。一曲一曲に込められた作曲家の想いを心を入れて演奏していけたらと僣越ながら願っております。

演奏会のコンセプト・テーマ

シニアの成人式

「祝」〜「旅立ち」〜「挑戦」

第一部 『祝いのステージ』

「輝け・シニア」

常任指揮者 中村 暁生 作曲

「音楽祭のプレリユード」

A・リード 作曲

楽劇「ニュルンベルグの

マイスタージンガー」

R・ワグナー 作曲

第二部

『挑戦そして旅立ち』

お客様に感謝のステージ

木管アンサンブル

楽劇「ローエン格林より

「エルザの大聖堂への行列」

R・ワグナー 作曲

トランペット 鈴木 隆起 編曲

金管・パーカッション

アンサンブル

歌劇「アイーダより「凱旋」

G・ヴェルディ 作曲

トランペット 石井 邦紀 編曲

ジャズステージ

「鈴懸の径」

灰田 有紀彦 作曲

クラリネット 小西 悟 編曲

「パイレーツ・オブ・カリビアン」

クラウス・バデルト 作曲

「服部良一ヒット曲メドレー」

服部良一 作曲

アンコール

「あまちゃん」

NHK朝の連続ドラマ小説

オープニング・テーマ曲

大友 良英 作曲

「花は咲く」

NHK東日本大震災プロジェクト

テーマソング

菅野 よう子 作曲



平成二十五年度定期総会報告

去る五月十九日「中村屋旅館」において平成二十五年度定期総会を開催しました。

総会に先立ち、去る二月十日に亡くなられた林団長のご冥福をお祈りして黙祷を捧げました。

次に、中村副団長の団長代行について事務局から説明がありました。

「三月役員会で中村副団長に団長就任を打診したが、中村副団長からは「喪が明けるまでは新団長を選出しなくても良いのではないか。当面は規約に則って副団長が団長を代行する。団長就任要請については、団長という団運営の責任と常任指揮者という音楽面での責任が一人に集中するのは良くない。一年かけて新団長選出について規約改正を含めて考えれば良いのではないか。」と固辞されました。

引き続き、中村団長代行から総会開催に当たって挨拶がありました。

「今年には団創立二十周年となるが、定期演奏会を前に創設者である林先生が亡くなられたことは大変残念であり、皆様と共にご冥福をお祈りする。また、創立当時から団を支えてこられたベテラン団員が健康等の理由で退団されたことは残念ですが、大勢の新しい方々の入団は大変喜ばしいことで、着実な団の演奏力向上を皆さんも実感している事と思う。

練習場移転については事務局、多くの団員のご協力によつて無事終了したことに感謝する。また、創立二十周年演奏会、祝賀会の準備が進められているが、その成功のため皆様のご協力をお願いします。

最後に、団長代行として役員会の要請と規約により副団長に鈴木隆起氏を指名します。」

総会は、団員五十名に対して、総会出席二十八名、委任状提出二十一名の合わせて四十九名で、総会の成立が確認され、柿岡氏を議長に選出して議案の審議に入りました。

最初に、事務局から「平成二十四年度事業報告」があり、続いて第十九回定期演奏会の実施結果について実行委員会の藤田氏から概要報告、石田理事から育児支援サービスの概要についての報告がありました。引き続き「平成二十四年度決算報告」「会計監査報告」があり拍手多数で承認されました。

次の議題として「平成二十五年度事業計画」「平成二十五年度予算案」について事務局長から説明があり、「事業計画」について、本年度の練習場は確保出来ている。楽器倉庫は日常練習に使用する楽器は豊水会館地下室が確保出来ている。その他の物品については、山田監事の尽力により取引先倉庫の一室が確保出来た。

育児支援サービスについては今年

度も継続し、託児室として練習場横の会議室を借用する。また、本年度から本サービスの運用はサービス利用者のお母さん達を中心になつて行う。」

次に、第二十回定期演奏会及び二十周年祝賀会について、クラリネットパート実行委員会の阿部(薫)氏から説明がありました。

「第二十回定期演奏会は、小学生との共演は行わない。ステージは三部構成とし、第一部は「お祝いのステージ」としメイン曲はワーグナー生誕二百年に因んで「ニユルンベルグのマイスタージンガー」。第二部は「挑戦、お客様に感謝のステージ」とし、団員の編曲による木管、金管アンサンブル、及びジャズ演奏、お楽しみクイズは新趣向の二曲同時演奏の曲当てクイズ。三部は「旅立ちのステージ」とし、「震災を忘れない・感謝・希望」をテーマに、メインの曲は中村団長代行への委嘱曲「輝け・シニア」です。

また、二・三部はオリジナル衣装で、団員は千円程度の負担になる。ステージマネージャーはトランプペットの鈴木さんをお願いして、早い段階から実行委員会に加わつて貰った。司会者はフルートの高橋幸恵さんをお願いする。エキストラはパーカッションで三名を考えている。

二十周年祝賀会は演奏会終了後にKKRホテル札幌で開催する。団創設に関わつた方や功労者、これらの方々の奥さんやご家族、及び団員の

ご主人や奥さん達も招待したい。また、二十周年記念誌発行は、トランプペットの古川さんに担当をお願いしている。」

次に、翌年の第二十一回定期演奏会についてトロンボーンパート実行委員会の石川氏から説明がありました。「実施日は、平成二十六年十月五日(日)」「かである2・7」。実行委員会をスタートさせたばかりだが、パートが3名なので多くの団員の方の応援・支援をお願いしたい。」

引き続き、平成二十五年度予算案の説明がありました。

「練習会場費は豊水会館と三回程のリフレ・サップ口借用及び楽器運搬費を合わせて三十四万円を計上した。育児支援費は昨年度同様にサービス員派遣料の半額を団費負担とし、豊水会館の会議室(託児室)借用料と合わせて十万円を計上した。また、創立二十五周年事業積立として本年度から毎年十万円を積み立てることとする。」

質疑については、第二十二回定演実行委員会のユーフォ、チューバ、パーカッションパートから「メンバーが少なく実行委員経験者も少ないので第二十一回実行委のトロンボーンパートと合同という考えはないのか?」との質問があった。役員から「これまで、人数の少ないパートも他パートの団員に加わつて貰い実行委員会を立ち上げてきた。パートが

一巡するまでは計画通りにやつて行きたい。」

また、現在の実行委員会が一巡した後、次の実行委員会をどうするか決めなければならぬ。平成二十七年の演奏会で一巡するが、二十八年の演奏会では二十七年度の頭初に立ち上がるので、二十六年の総会では次の実行委員会の体制について決める必要がある。」

その他の質疑はなく、平成二十五年度事業計画、平成二十五年度予算案は拍手多数により承認されました。

次に、役員改選について事務局長から説明がありました。

「任期満了の役員は、理事(石井、高橋、長土居)三名、監事(山田)一名ですが、皆さんから留任の意思を頂いているので役員改選はありません。従つて、平成二十五年度の役員体制は次のようになります。」

団長代行	中村 暁生
副団長	鈴木 隆起
理事	石井 邦紀
	石田 由紀
	伊藤 英明
	高橋 幸恵
	長土居 梨那
	古川 亨
監事	廣瀬 安孝
	山田 光國
	伊藤 英明
事務局長	(五十音順)

最後に、団長選出に関する規約改

正について規約見直し担当の廣瀬監事から、今後のスケジュール等について説明がありました。

「団長の選出について、規約では「役員による互選」となっているが、団員に開かれた団長選出を行うために規約を改正したい。スケジュールは、団員から数名の委員を選んで委員会を立ち上げ、早い段階で改正案を作成して総会に回りたい。」

また、事務局から「来年の定期総会で規約改定を行ったのでは、新しい団長選出までには二年掛かってしまう。規約の改正案が出来上がった段階で、臨時総会を開いて規約を改正し、定期総会にて団長を選出するスケジュールにしたいと考えている。」との説明がありました。

以上で、予定の審議事項は終了し、議長の大役を担当して頂いた柿岡氏を拍手で解任いたしました。

最後に、副団長として氏名された鈴木氏から挨拶がありました。

「中村先生から直接、副団長就任の話があった。六月一杯で仕事の方は退職予定であり、七月以降は時間的に多少余裕が出来るので、中村先生のお手伝いが出来ればと思い、引き受けることにした。任期の二年で退任と言うことではなく、永い期間、団の事に色々関わって行けたらと思う。色々懸案もあるようだが、皆さんと一緒にやっていきたい。よろしくお願いします。」

以上で平成二十五年度の総会を終了し、引き続き懇親会へと席を移しました。
(事務局記)

副団長よりごあいさつ

トランペット 鈴木隆起

去る5月に行われた北海道シニア吹奏楽団定期総会において、団長(代行)の中村先生のご指名により、副団長に就任しましたトランペット・パートの鈴木です。

副団長の件について中村先生から事前にお話があった時は、非常にびっくりいたしました。

私がシニアに入団したのが15周年記念定期演奏会の3か月ほど前。今回が20周年ですから、在団期間はまだ5年間でしかなく、多くの団員の中でも比較的新しい方の部類に入ります(年齢は、団員の平均年齢以上ですが)。それ故、故林先生の意思を受け継いで発展してきた北海道シニア吹奏楽団には、私の知らない部分が沢山あり、そんな自分でいいのか、という心配が真っ先に頭の中を過りました。

この心配に対する中村先生のお考えを伺って私自身も理解しましたし、7月以降ならば、本業が一段落することである程度に多少のゆとりができるため、お引き受けることにした

わけです。

シニアの規約によれば、副団長は「団長を補佐し、団長に事故ある時はその職務を代行する」という一般的な定義になっていますが、具体的な業務の一つとして、七月十一日に行われた役員会において、「見学、入退団、休復団」関連を担当することに決まりました。

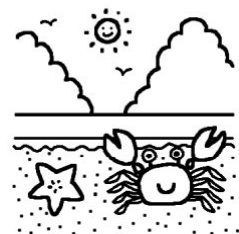
いわゆる団の人事に関することが所掌範囲になります。会社のような人事権を持つている訳ではありませんので、「副団長に言えば無理もありませんか」といった誤解をなさらないよう、くれぐれもよろしくお願いたします。

他の役員もそうですが、団のルールを遵守し、団員の誰かがやらねばならないことを行うだけです。団員の皆さんの意見を調整し、具体化するのが役員の役割ですので、団員の皆さん自身がお自分の問題として前向きにご協力してくださることを期待しております。

既に存在する課題やこれから発生する諸問題に関しても、まずは、「快適な演奏活動の場を団員の皆さんに提供する」といった基本的な考え方にたつて、その一つ一つをオープンかつ着実に議論し解決していくことが重要だと思っています。そして、そのことが、新しいシニアを創造していくことに繋がるものと信じております。

これから新体制の一部として行動していくことになりませんが、当面は、以上のような考え方を持って団長(代

行)を補佐し、団員の皆さんのために尽力したいと思っております。微力ではありますが、よろしくお願いたします。



新入団員のごあいさつ

『三十年振りに』

ホルン 碓見 泰弘

昨年の九月、三十年ぶりに楽器を自宅の倉庫から出し、久方ぶりに楽器を手にした時に蘇ってきた懐かしい思い出が、自分を何かに駆り立てるように突き動かすエネルギーに変わっていました。間もなく、キクヤ楽器さんにオーパーホールを依頼し、十二月には北海道シニア吹奏楽団の伊藤事務局長に見学希望のメールを送っている自分がいました。

一月に入団をご許可いただき、さらには音も満足に出ない私を二月のシルバーハイッツ慰問演奏団にまで加えていただきましたことは本当に心より感謝申し上げます。心より有り難うございました。団の皆様全員から心の温かさと、音楽への愛情がひしひし感じられた瞬間でもあり

ました。

私とホルンとの出会いは、北見での中学・高校時代に遡ります。吹奏楽部でホルン演奏の毎を送り、時間があればデニスブレインのLPを聞き、モーツァルト、R・シュトラウス、シューマン・コンツェルトシユトウツク等の協奏曲をBGM代わりに聴いていたことを思い出します。

その後、大学に入ってからは、一転して体育系に入ったため吹奏楽からは遠ざかりましたが、就職した現在の職場である医療機関が代替療法、特に音楽療法には特に力を入れており、音楽が病を癒やす効果のあること、精神的な安定をもたらす効果のあることを身を持って感じており、継続して音楽に関われたことは良かったと思っています。

また、私にとつての癒やしは毎週の軽登山と毎日の晩酌適量(日本酒)であり、「酒は百薬の長、されど、万病の元」(貝原益軒)をモットーに楽しんでおります。演奏においては未熟であり、迷惑をお掛けすることが多分にあると思います。今後ともご指導の程、宜しくお願い申し上げます。



『よろしく願います』
オーボエ 若原 梓

昨年七月頃から皆さんの仲間入りさせて頂きました、オーボエ担当の若原梓です。今回、原稿を依頼されましたので簡単ですが自己紹介をさせて頂きます。

音楽経験は、もともと私は中学校の吹奏楽部の時にパーカッションを担当していました。高校の吹奏楽部の楽器決めの時、パーカッションの競争率が高く初めて吹奏楽をやるという同期の子に譲りオーボエをやる事になったのがきっかけです。その後社会人になってからは楽器が買えるわけもなく音楽とは無縁の生活を送っていました。現在の職場で音楽をやるメンバーが何人か居た事からまたやりたいとずっと思っていた気持ち爆発し楽器を購入。しばらくは職場のバンドでやっていました。が物足りず・・・楽団を探して居た所、年齢層は自分とはかけ離れていました。が妙に落ち着くなあと感じ入団を決めたのが経緯です。

実際入ってみて「孫」とか「小ボエ」とかあだ名まで付けていただいていた(笑)、毎回楽しく練習参加させて頂いています。

プライベートでは、とにかくお酒が大好きです。友達とワイワイ飲んだり、時には一人飲みも好きです。美味しい楽しいお酒の席は大好きです。(笑)

実は人見知りで自分から話しかけるのが苦手なので、未だにお話した

事のない方もいらつしやいますが、仲良くして下さい！話すとしたのばかなので(笑)
そしてこれからも楽しく音楽をやるたかなと思えます。よろしくお願います。



お祝い

嬉しいお知らせがあります。

去る一月二十九日にコントラバスの高橋徳真さんとフルートの村山幸恵さんがご結婚されました。新居は江別に構えております。新しい門出を迎えたお二人へ、いつまでもお幸せに。



編集余録

総会も無事終了し、気付けば季節はすっかり夏。そしてあつという間に定期演奏会を迎えるのでしょうか。一日一日を大切に生きたいと思う今日この頃です。室内にいても熱中症は怖いもの。暑くなくてもものが渴いていなくてもこまめな水分補給を忘れずに！ちなみにアルコールは水分補給にはなりませんのでご注意ください。(石田)

七月に入って毎日夏らしい暑さになってきました。練習場が豊水会館に変わってから、ホルンを背中に背負ってママチャリで通っています。練習場に着く頃には、髪を振り乱し、汗だくの状態になっていますが、本番まで残り三ヶ月。暑さに負けないように水分補給しながら、気合いを入れて練習と合奏を頑張りたいと思います。(池内)

シニアの練習は基本的に月2回、シニア便りは年3回の発行……少ないように見えて時間はすぐに過ぎてしまうんだなと思うこの頃です。今年の定期演奏会も特別なものになりそうですね。私は来年の演奏会で十回目になるので、来年も個人的な記念演奏会になります(笑)。こうしてみなさんと毎年演奏会を創っていくことが本当に嬉しく思います。改めて今後ともよろしくお願致します！(長土居)

平成25年度の役員役割分担が決まりました。

去る7月11日の役員会で、本年度役員の役割・担当を下表の様に改めました。特に、これまで入団希望者の練習見学や入団対応などは便宜上事務局が対応してきましたが、今後は鈴木副団長が一括して対応しますので、よろしくをお願いします。

また、事務局業務が繁忙になっていることから規約に則って事務局次長を置くこととしました。長土居理事が担当します。主に、団の経理関係を担当します。

役 職	担 当	氏 名
団長代行	団運営統括・常任指揮者	中村 暁生
副 団 長	見学、入退団、休復団関連担当	トランペット 鈴木 隆起
理 事	副指揮者	トランペット 石井 邦紀
理 事	事務局・総務、「シニア便り」編集長	バス・クラリネット 石田 由紀
理 事	事務局長・予算管理・広報担当	ホルン 伊藤 英明
理 事	楽譜管理担当	フルート 高橋 幸恵
理 事	事務局次長・経理担当	アルト・サクソ 長土居 梨那
理 事	楽器・備品管理担当	トランペット 古川 亨
監 事	規約見直・慶弔担当	テナー・サクソ 廣瀬 安孝
監 事	創立20周年記念事業・実行委員長	クラリネット 山田 光國

役職毎に五十音順